

2005.03.13 No.7

上野遺跡だより

UENO ISEKI NEWS

〒514-1138 上野遺跡発掘調査現場事務所
三重県久居市戸木町上野6090-4 TEL059-255-8535

久居市教育委員会



調査地区の遠景(南より)

第4 - B・C調査地区の成果について

この調査地区は、上野遺跡において最も多くの遺構が集中する範囲の西端にあたり、標高約27mの平坦地に位置しています(図1)。この場所に調査地区を設定した主な理由の一つとして、今までの調査で発見された溝によって区画された中世の屋敷地群の西方向への広がりを確認することでした。調査の結果、屋敷地群の広がりとはみとめられませんでした。弥生時代の方形周溝墓(お墓)をはじめ、古墳時代から古代にかけての竪穴住居跡が多数発見されました(図2)。今までの調査成果もふまえると、上野遺跡は縄文時代から中世にかけての大規模な集落遺跡であると言えます。

今回発見された主な遺構は、弥生時代の方形周溝墓と古墳時代の竪穴住居跡です。方形周溝墓は合計2基発見されており、溝の四隅は掘削せずに陸橋を造ったものと、向かい合う二辺に陸橋を造ったものがあります。墳丘は後世に削平されており、埋葬施設は発見できませんでした。これらの時期は、溝から出土した土器から判断して、弥生時代中期頃と考えられます。竪穴住居跡は合計29基発見されており、古墳時代中期から古代にかけてのものです。住居によっては、後世にそのほとんどが削られて詳しい時期がわからないものもありますが、出土した土器から判断して、住居10、12、14~23、26~28が古墳時代中期、住居1~9、11、13が古代(7世紀末から8世紀にかけて)のものと考えています。

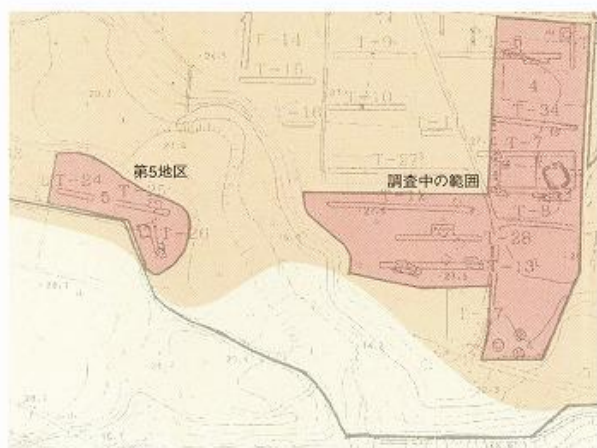


図1 調査地区の配置図

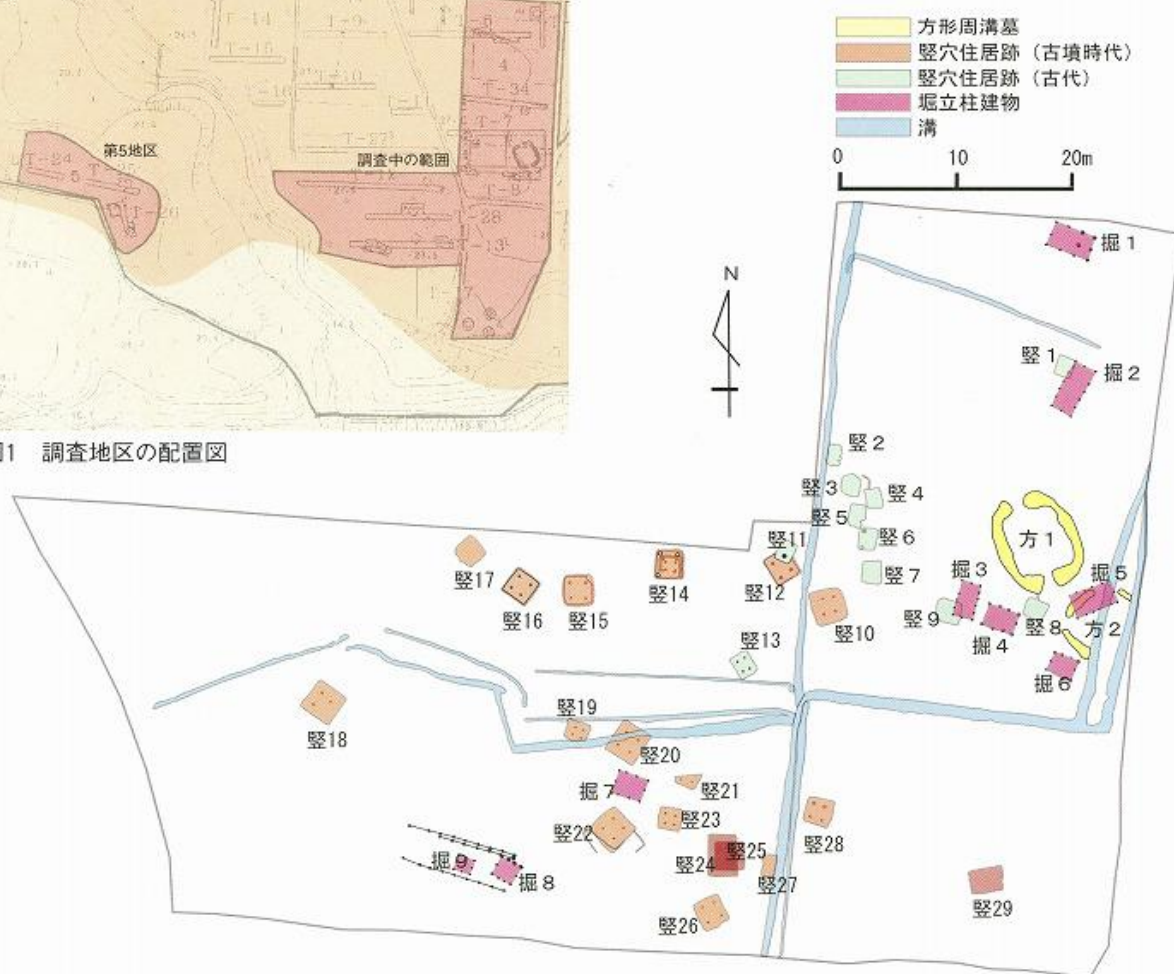


図2 第4-B・C地区の主要な遺構の配置図

今回発見された竪穴住居跡の特徴として、古墳時代のものは、住居の床面に4本の主となる柱がしっかりと配置されているのに対して、古代の竪穴住居跡の場合はそれらの柱の痕跡がはっきりとしないことです。しかも、古墳時代の住居の大きさが約4～6m四方であるのに対して、古代の住居は一辺が約3m未満と小さく、住居の平面の形もいびつなものが多く見られます。

また、住居の内部施設を見ると、古墳時代のものには、カマドの痕跡がみとめられますが、古代の住居にはカマドの痕跡が確認できないものがあります。

その他の遺構として、調査地区のほぼ中央付近を東西と南北方向に走る溝があります。

これらの溝は、一つにつながっており、幅は約1～3mです。

東西方向へ走る溝の東端付近では北方向へ屈曲して延び、南北方向へ走る溝の北側付近では東側へ屈曲させています。現在のところ、この溝の性格や時期については明確にできませんが、溝の一部が、最近までつかわれていた農道と重なっており、道の可能性があると考えています。また、この溝は、古墳時代と古代の住居を壊して造られており、少なくとも古代以降に造られたものと推定されます。



図3 方形周溝墓1(北西より)



図4 方形周溝墓2(西より)



図5 竪穴住居跡14(南より)



図7 竪穴住居跡22(南西より)



図7 竪穴住居跡11・12(南より)

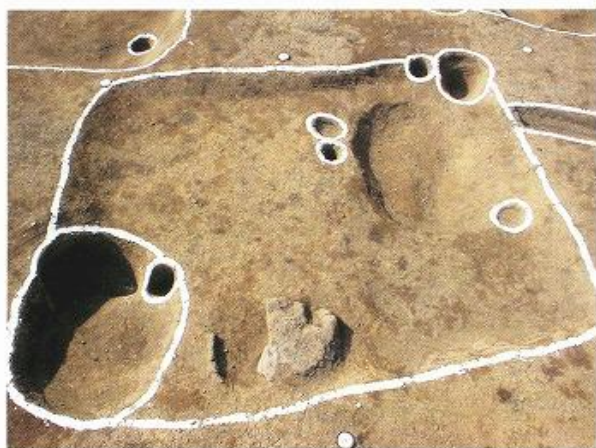


図8 竪穴住居跡4(東より)



図9 道の遺構(北より)



図10 道の遺構(東より)



図11 道の遺構(西より)



図12 掘立柱建物跡2(北東より)